

**《法定職員研修》10
災害発生時の業務継続計画
理解度確認テスト**

次の設問が正しければ○、間違っていれば×を回答欄に記入して下さい。

No	設問	回答欄
1	災害対策は防災から減災へと変わってきたのです。そして、一定の損害を覚悟する以上、損害を受けた時にいかにして事業を継続するのかという対策が必要になってきた。	
2	防災計画は、災害発生時の人的物的損害を防止・軽減する対策。事業継続計画は災害で一定の被害を受けた後に、どのように生活・事業の継続を図るかと言う計画である。	
3	災害BCPIは、総論、平常時の対策、災害発生時・発生後の対策と大きく3つに分けて作成する。	
4	BCPの運用で重要なことは、研修、訓練の実施である。2021年4月に改正された運営基準では、BCPを策定するだけでなく、研修して訓練を行うことが努力義務となった。	
5	総論で大切なことはリスクの想定である。施設が負う災害リスクには差が無い場合、リスク想定は大きな施設に倣う。	
6	平常時の対策で重要なポイントは、ライフライン途絶の想定と食料や備品の備蓄である。	
7	平常時の食糧備蓄について、普通食が食べられない嚥下機能の障害の利用者の食事や胃ろうの経管栄養剤の備蓄方法についても決めておく。	
8	災害が発生した直後に重要な対策は、災害発生時の対処行動と職員の招集である。	
9	災害対策本部は、平常時、災害発生時、災害発生後に分けて役割を決める。	
10	災害対策マニュアルは、よくできているマニュアルのひな型に沿って作成することが安定した内容となる。	
11	利用者への食事の備蓄は、食事形態がミキサー程度になるような、カレーやシチューなどつぶしやすいものを多めに備蓄するとよい。	
12	停電した際の、酷暑時期の暑さ対策も重要な項目であり体温を下げる方法等も検討しておく。	
13	ケア用品の備蓄は大量にストックできないため、常に在庫を切らさないよう注意をする方法でストックを行う。これをローリングストック方式という。	
14	災害時の救援物資等、法人内または県内の施設で協定を結ぶとよい。	
15	災害発生時に利用者を守る対応の訓練は場面ごとに行うと効果的である。	

年 月 日

所属・配属

氏名

《法定職員研修》10
災害発生時の業務継続計画
理解度確認テスト

NO.	正解	解説
1	○	
2	○	
3	○	
4	×	BCPを策定し、周知させるために研修とシミュレーションは義務化されました。
5	×	自然災害のリスクは地域、施設によって大きく異なります。自施設のリスクを正確に把握しなければなりません。
6	○	
7	○	
8	○	
9	○	
10	×	地域、立地によって災害リスクは大きく異なります。自施設のハザードマップを確認しながら唯一無二のマニュアルを作成しなければ実用性がありません。
11	○	
12	○	
13	×	最低在庫数を増やして在庫管理をする方法をローリングストック方式といいます。いざという時も在庫が著しく減ることを防ぎます。
14	×	県内に留まらず、県外に広域災害援助協定を結んでおく心安心です。
15	○	